

〔教授研究会報告要旨 2〕

2014 年 12 月 3 日

教育留学の心得－DePaul University にて

王 昱

(関西学院大学国際学部准教授)

この度、半年（2014 年 3 月 27 日～2014 年 9 月 26 日）の学院留学をさせていただきまして、大変勉強になっております。半年の留学期間を 2 段階に区分して、学習と研究を行っていました。

留学期間の前半に、留学機関である DePaul University の語学コースを通いながら、MBA コースの国際会計学の講義を聴講させていただきました。

留学期間の後半に、留学課題である“会計教育における日米比較－Book Keeping を中心として”を巡って、アメリカ会計学会への参加、旧アメリカ造幣局の訪問、消費税非課税都市の訪問等を行いました。また、米国における Bookkeeping の科目設置、教科書について、大学図書館や市民図書館などでの現地調査もしました。

留学先では、地元の学生以外に世界各地から来ている留学生との交流を試みました。Bookkeeping に関する簡単なインタビューを行いました。国によって、Bookkeeping への認知度がそれぞれでした。いろいろな原因がありましたが、印象深かったのは、宗教、文化、自然資源の有無でありました。すなわち、それぞれの国には、自国の宗教を持ち、それに応じてその国の文化が生まれ、さらにその国の特性を持つビジネスモデルが形成されます。さらに、自然資源に恵まれている国とそうでない国では、Bookkeeping や会計がもはや新たな役割を果たしているのではないかと考えております。

今回の短期留学を通じて、宗教・文化・法規制・商慣習などの背景が異なっている国々では、Bookkeeping に関する教育はそれぞれの特徴を有していることはより深い理解ができました。また、様々な研究活動を通じて、“宗教・文化と会計との係わりについて”の研究を試みたいのです。

以上

〔教授研究会報告要旨 3〕

2014 年 12 月 17 日

西シドニー大学における在外研究報告

——シドニー北部における日本人コミュニティ——

長 友 淳

(関西学院大学国際学部准教授)

今日の日本人中間層の国際移動は、移住者個人の生き方に関する理想や海外生活への期待、あるいは日本社会の閉塞感など、様々な要因によって生じており、社会構造上のプッシュ・プル要因から説明することが難しい。彼ら日本人中間層を取り巻く状況を見ると、90 年代の不況下に生じた社会変動の中で個人化傾向やライフコース選択の柔軟性が進展するとともに、インターネットの普及によって業

務形態や社会的ネットワークの構築などに変化がもたらされている。これらの個人化と情報化の流れの中で、日本社会の中間層では安定的なライフコースモデルが崩壊し、「自分探しの移民たち」、「外こもり」など多様な移住形態が出現している。

以上のような今日の日本人中間層移住者の状況を踏まえ、本発表はオーストラリアのシドニー・ノースショア地区に居住する日本人移住者を事例として、個人化傾向や日本の企業社会を逃れた経緯や感情などの内的要因およびインターネットや SNS の普及などの外的要因によって、移住者の間で従来型のエスニック組織（日本人会など）への依存度が減っている様相を、質的調査をもとに明らかにした。また、エスニック・コミュニティの脱組織化の流れが進む一方で、自主参加型のネットワークが形成されている様子について、育児グループや変革した大学同窓会などの開かれたネットワークを事例に考察した。